

草の根 通信

VOLUME

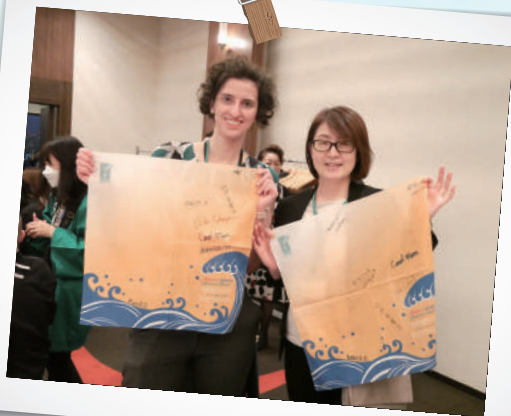
113

Kusanone Tsushin

[2022年12月発行]




See you next time...



特集

日米草の根交流サミット2022開催報告
小布施サミット、式典・コンベンション、父島フォーラム
・万次郎関連団体ニュース

A young girl with long dark hair, wearing a white headband and a pink dress with a white geometric pattern, is smiling and looking back over her shoulder. She is standing in a busy outdoor market with various stalls and people in the background. The lighting is bright and natural, suggesting a sunny day.

彼女の名前はクロエ。
アジアの小さな町で暮らしています。
まだ誰にも言っていないけれど、
将来は、獣医さんになりたいそうです。

そんな女の子の毎日に、
私たちの仕事は役立っているだろうか。
三菱商事は、そんなことを考えます。
彼女の未来を考えることは、
この世界の未来を
考えることにつながっている。
そう思うのです。
仕事広がるほど、複雑になるほど、
その先にある一人の幸せを想う。
私たちは、三菱商事です。

世界とひとりのために。

日米草の根交流サミット 2022 開催報告

小布施サミット、式典・コンベンション、父島フォーラム

3年ぶりにやっと開催された日米草の根交流サミット2022。コロナ感染の心配が払拭されない中でも、長野県小布施町の有志たちによって、国際交流の再開のため、まさに草の根活動により町民と町を動かし、ホームステイを含むプログラムの開催が実現されました。

従来とは形態を変えた草の根交流サミットとなりましたが、国籍を超えた市民が集まり、日米・世界の友好交流の重要性、対面での交流の温かみや大切さを確認したイベントとなりました。その様子をダイジェストでご報告します。

日米草の根交流サミット2022 in 小布施

小布施ではホームステイ2泊を含む4日間、小布施町の人々と過ごしました。

小布施町は、栗の町、葛飾北斎が晩年を過ごした町としても知られ、土着の文化として、他を受け入れてもてなす習慣が存在していました。

現在も若い人材を受け入れ、共に発展するためのプロジェクトを積極的に進めています。

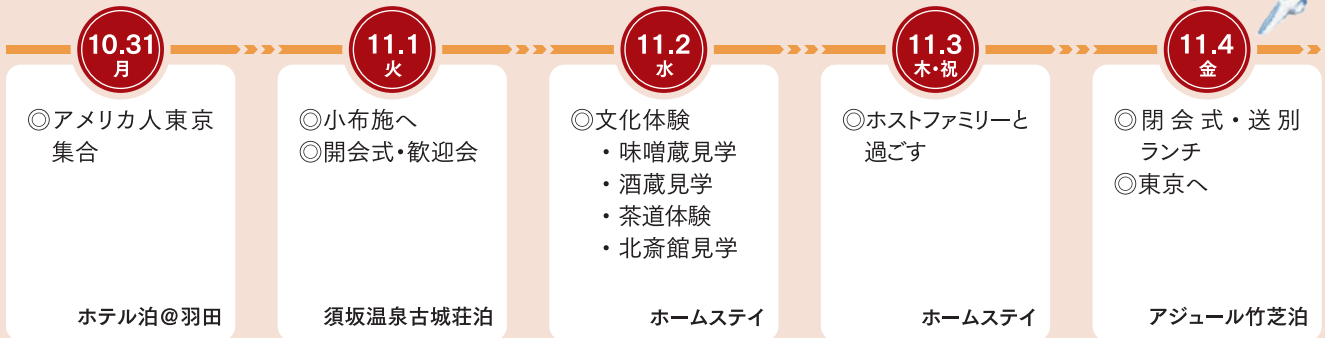
アメリカ人参加者たちも、小布施の日本文化を体験し、そのホスピタリティに触れることができました。

共催：小布施町

運営：日米草の根交流サミット 2022 in 小布施実行委員会（実行委員長：市村良三氏、実行委員数：22名）

参加者総数：88名（アメリカ人参加者12名、ホストファミリー29名、その他協力者19名、実行委員関係者6名）

スケジュール



11月1日(火)

羽田を出発前、参加者及びスタッフ全員の抗原検査不検出を確認し、一路小布施へ。小布施町役場では歓迎式典が催され、桜井町長、市村実行委員長、石川 CIE 理事長より挨拶があり、3年ぶりのサミット大会の開催と日米市民との草の根交流を祝った。小布施のまちづくりの変遷に関する講義に続いて、町を歩きながらオープンガーデンや町並みの修景事業の様子を確認した。



石川和秀 CIE 理事長



市村良三実行委員長による挨拶



桜井昌季小布施町長



3年ぶりに対面での再会を果たすスコットさん、文さん、ペリーさん



まちづくり講義への質問



栗の折り紙体験

その後、小布施堂本店で歓迎食事が開催され、小布施町の秋の味覚を堪能し、小布施町の盛大な歓迎に感動した。



ジェイムズ・ケリー CIE-US 理事長による乾杯



市村次夫小布施堂代表取締役による挨拶



歓迎食事会の様子



穀平味噌醸造所
小山羊史代表取締役から説明をうける



市川博之 14代目当主による酒造工程説明



慣れない正座に苦心しながらも、講師のお手本に習い、季節のお菓子と共に味わった



北斎館学芸員中山幸洋氏による特別講義

11月2日(水)

小布施ならではの日本文化を体験。老舗の穀平味噌醸造所と松葉屋本店の酒蔵を見学し、昼食に名物の栗おこわを堪能。午後は茶道体験、北斎館で北斎の魅力に存分に触れた後、各々町内を散策したり、栗のスイーツを味わったりと自由に過ごした。いよいよホストファミリーとの対面。すでに、ホストファミリーとはメールなどで挨拶を済ませているので、やっと会えた、とお互いに安堵と喜びの表情を浮かべ、ホームステイ先へ移動していった。

11月3日(木) 文化の日

参加者たちはそれぞれのホストファミリーと共に1日を過ごした。リンゴ狩りやお餅つき、秋祭り、雪猿探し、ハイキングなど、それぞれが様々な体験をした。



11月4日(金)

ホストファミリーや関係者が集まった役場講堂で閉会式が開催された。短い時間であったが、親密な交流ができたことを確認し、これからの長い交流を約束した。実行委員会からは交流の様子を収めたアルバムが参加者に用意され、それぞれのホストファミリーから手渡された。送別パーティも含め、最後の交流を楽しんだ。



小林一広小布施町議員による挨拶



小山羊史実行委員による挨拶



吉國譲治 CIE 特別顧問によるお礼の挨拶

ホストファミリーの声

- 英語・日本語が得意でなくても、ジェスチャーやイラストなどで、温暖化の問題やお互いのルーツについてなど、いろいろなことを話すことができました。
- もっとホームステイの時間があれば良いと思った。子供たちも参加者と一緒に遊びながら、楽しい異文化交流を過ごしました。
- 特別なことはしていないものの、話をする時間や機会を設けたことで堅い関係性の構築に繋がった。

参加者の声

- 小布施はとても美しい町でした。人々が皆協力し、自分の庭の美しさを共有していることに驚き、とても素晴らしいことだと思いました。人々はとてもオープンで親しみやすく、親切で、思いやりがありました。私の家族の言葉を借りれば、"この出会いは奇跡"でした。
- 短い時間でたくさんを経験しました。すべてが素晴らしい!!!
- ホームステイの経験は素晴らしいものでした。唯一の不満は、もう少し長ければということです。

国際草の根交流サミット式典・コンベンション

小布施サミットの閉会式、父島フォーラムの開会式となるサミット式典・コンベンションには、小布施サミット参加者、父島フォーラム参加者、過去のサミット参加者や日米交流に関心のある方や万次郎関連団体の方々とともに、万次郎とホイットフィールド船長の子孫たちの3年ぶりの再会と日米友好を祝い、草の根交流の重要性、平和貢献について考える機会となりました。

日時：11月5日(土) 15:00～ 場所：ベイサイドホテル・アジュール竹芝 14階「天平」
参加者総数：103名

式典 式次第

開会の挨拶

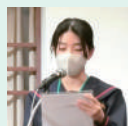


石川和秀 CIE 理事長

弦楽四重奏演奏
ジョン万次郎・メモリアル
オーケストラ



スピーチ



ジョン万英語弁論大会特別賞受賞
東恩納沙奈さんによるスピーチ



音楽監督
野武重忠 氏

特別公演「戦場写真家の
伝えたいこと」



写真家 青木弘 氏

式典に寄せて
「グローバル社会と平和
先祖からのメッセージ」



中濱万次郎直系
5代目子孫、CIE
評議員 中濱京 氏

中濱ーホイットフィールド
記念品交換



ホイットフィールド船長6代
目子孫スコット・ホイット
フィールド 氏と中濱京 氏

休憩

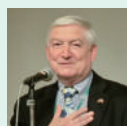
懇親会



乾杯

CIE-US 役員・
全米日米協会会長
ピーター・ケリー 氏

閉会のご挨拶



ジェームズ・ケリー
CIE-US 会長

日米草の根交流フォーラム

父島フォーラムは、愛媛県の方が送ったペリー提督に由来する星条旗についての新聞記事がきっかけではじまった交流を実現するべく準備が進められました。

父島は、ペリー提督や万次郎、そして捕鯨にゆかりが深いだけでなく、万次郎やホイットフィールド船長、ペリー提督と父島最初の入植者の一人ナサニエル・セーボレーが繋いだ友情の絆に付随する一つ一つの小さなパーツがつながり、今回CIEの初めての試みとして、日米草の根交流フォーラムというレクチャー交流の形式で実現に至りました。

父島では、ナサニエル・セーボレーの子孫、セーボレー孝さんがキーパーソンとして、フォーラムの開催と運営に多大なご協力・ご支援をくださいました。

協力：小笠原村、都立小笠原高校、小笠原ビジターセンター、ボニンインタープリター
参加者総数：約 150 名（アメリカ人参加者 9 名、日本人参加者 12 名、小笠原高校他協力関係者）

スケジュール

11.6
日

◎竹芝出港

11.7
月

◎二見港到着
◎万次郎展・散策
◎歓迎式典・歓迎会

11.8
火

◎父島歴史探索ツアー
◎小笠原高校講演・
交流会

11.9
水

◎オプション・アクティビティ・ツアー
◎講演会「子孫が語る日米のかけ橋
ジョン万次郎」

11.10
木

◎午前 フリータイム
◎午後 二見港出港

11.11
金

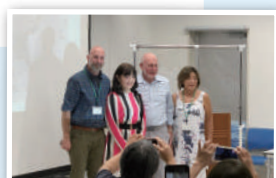
◎竹芝到着

11.12
土

◎帰国



父島歴史探訪ツアー



「子孫が語る日米のかけ橋 ジョン万次郎」

11月6日(日)

全ての参加者がPCR検査をクリアし、11時発の小笠原丸に乗り込み、父島へ向けて出港。

東京竹芝から父島までは約1,000km。24時間の船旅の始まり。出港後12時間ほど過ぎた頃に、万次郎がホイットフィールド船長に救助された鳥島付近を通過する。土佐からいかに遠くへ流されてきたのかを実感。



11月7日(月)

天候と潮流の影響で20分ほど遅れ、父島二見港に到着。小笠原村役場の歓迎横断幕の歓迎を受け、父島に上陸。

小笠原村議事堂での歓迎式典では、父島の歴史に深く関わる万次郎、ホイットフィールド、ペリーらの子孫たちの来島を祝った。

先の戦争で焼失させたペリー提督からセーボレー家に贈られた31星星条旗に代わり、新たに50星星条旗が5代目子孫のマシュー・ペリー氏から同じく5代目子孫のセーボレー孝氏に贈られた。



11月8日(火)

小笠原高校では、高知で行われた土佐ジョン万会万次郎英語弁言論大会で特別賞を受賞した3人の中高生の生徒による発表に続き、スコット・ホイットフィールド氏、中濱京氏、マシュー・ペリー氏による父島とそれぞれの先祖とに関係する講義が行われ、久しぶりの交流を高校生たちも楽しんだ。



11月9日(水)~11日(金)

24時間船旅の帰路では、展望ラウンジで思い出を語り合ったり、父島で出会った旅人と情報交換をしたりと残りの日本での時間を有効に使っていた。6日間のアメリカ人と日本人参加者が一緒に向かった父島への旅程が終了した。



島で交流した方々からレイが贈られた



小笠原高校の高校生たちと食事する参加者



News

万次郎関連団体ニュース

① 中浜万次郎国際協会主催「万次郎忌」に ホイットフィールド船長、ペリー提督子孫らも参加

11月5日(土)毎年万次郎の命日に近い休日を選び行われている「万次郎忌」。今年はCIEの日米草の根交流サミットに合わせたこの日に行われ、雑司が谷霊園にある万次郎の墓前に、日本全国の万次郎関連団体の関係者や中濱家に加え、初めてホイットフィールド船長とペリー提督の子孫が揃った。



② 万次郎メモリアル・オーケストラ・ニューイヤーコンサートのお知らせ

11月5日の国際草の根交流サミット式典・コンベンションで演奏・講演頂いた野武重忠さん率いるオーケストラの公演。チケットはミュージア川崎及びチケットぴあにて発売中。

日程:2023年1月8日(日) 14時開演 劇場:ミュージア川崎

全席自由:¥1,000 Pコード:231-423

公演などに関するお問い合わせ先:ジョン万次郎・メモリアル・オーケストラ 090-2401-9245



③ 坊っちゃん劇場:ジョン万次郎漂流180周年ミュージカル 「ジョンマイラブ2023-ジョン万次郎と鉄の7年-」のお知らせ

日程:2023年1月26日~29日(計6公演) 劇場:サンシャイン劇場(池袋)

主演:AKB48 作・作詞・演出:横内謙介

チケット取扱い:チケットぴあ/ローソンチケット ※専用申込書にて万次郎関係団体会員対象の割引あり

公演などに関するお問い合わせ先:坊っちゃん劇場 089-955-1174 HP:<https://www.botchan.co.jp/production.html>



Japanese Hospitality Wherever You Fly



寄附協賛企業一覧 (五十音順) List of Corporate sponsors of CIE Japan



株式会社アイシン
AISIN CORPORATION



愛知製鋼株式会社
AICHI STEEL CORPORATION



株式会社ECC
ECC Co., Ltd.



株式会社ジェイテクト
JTEKT CORPORATION



全日本空輸株式会社
All Nippon Airways Co., Ltd.



ダイキン工業株式会社
Daikin Industries, Ltd.



株式会社デンソー
DENSO CORPORATION



株式会社ドトールコーヒー
Doutor Coffee Co., Ltd.



豊田合成株式会社
TOYODA GOSEI CO., LTD.



トヨタ自動車株式会社
TOYOTA MOTOR CORPORATION



トヨタ自動車九州株式会社
TOYOTA MOTOR KYUSHU, INC.



株式会社豊田自動織機
Toyota Industries Corporation



豊田通商株式会社
Toyota Tsusho Corporation



トヨタファイナンシャル
サービス株式会社
TOYOTA FINANCIAL SERVICES
CORPORATION



トヨタ紡織株式会社
TOYOTA BOSHOKU
CORPORATION



株式会社ニフコ
Nifco Inc.



日野自動車株式会社
Hino Motors, Ltd.



深田電機株式会社
FUKADA DENKI



富士通株式会社
Fujitsu Limited



ブラザー工業株式会社
BROTHER INDUSTRIES, LTD.



三井住友海上火災保険株式会社
Mitsui Sumitomo Insurance
Company, Limited



株式会社三井住友銀行
Sumitomo Mitsui Banking
Corporation



三菱商事株式会社
Mitsubishi Corporation



明治安田生命保険相互会社
Meiji Yasuda Life Insurance Co.



公益財団法人森村豊明会
MORIMURA HOUMEIKAI
FOUNDATION

東京海上日動火災保険株式会社 / パナソニック株式会社 / 矢崎総業株式会社
Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd. / Panasonic Corporation / Yazaki Corporation

法人賛助会員一覧 Corporate member

明治安田生命保険相互会社
Meiji Yasuda Life Insurance Co.



公益財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念
国際草の根交流センター

John Manjiro Whitfield Commemorative
Center for International Exchange

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-12-18 グランアックス麹町 602
TEL : 03-3511-7171 FAX : 03-3511-7175

GRAND AXE 602 2-12-18 Koujimach, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan
TEL : +81-03-3511-7171 FAX : +81-03-3511-7175
Email : manjiro@manjiro.or.jp URL : <http://www.manjiro.or.jp>